



## 平成22年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年10月28日

上場会社名 メルシャン株式会社 上場取引所 東・大  
 コード番号 2536 URL <http://www.mercian.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 植木 宏  
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 田尻 慶幸 (TEL) 03-3231-3925  
 四半期報告書提出予定日 平成22年11月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有・無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有・無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成22年12月期第3四半期の連結業績(平成22年1月1日～平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第3四半期	52,287	△6.7	△1,815	—	△1,693	—	△4,054	—
21年12月期第3四半期	56,063	—	△2,628	—	△2,436	—	△2,295	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年12月期第3四半期	△30 47	—
21年12月期第3四半期	△17 25	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年12月期第3四半期	62,267	34,674	53.8	251 70
21年12月期	70,719	39,238	55.0	292 04

(参考) 自己資本 22年12月期第3四半期 33,495百万円 21年12月期 38,871百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年12月期	— —	— —	— —	5 00	5 00
22年12月期	— —	— —	— —	— —	— —
22年12月期(予想)	— —	— —	— —	0 00	0 00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 有・無

### 3. 平成22年12月期の連結業績予想(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	79,000	△1.9	△400	—	△300	—	△2,300	—	△17 28

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 有・無

#### 4. その他

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の移動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、3 ページ「2. その他の情報」をご覧ください。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 無

② ①以外の変更 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

22年12月期 3 Q	133,689,303株	21年12月期末	133,689,303株
22年12月期 3 Q	611,352株	21年12月期末	584,555株
22年12月期 3 Q	133,094,511株	21年12月期 3 Q	133,131,277株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想等の将来に関する記述は、業績に与える不確実な要因に係る仮定及び本日現在における入手可能な情報を前提としており、実際の業績等は様々な要因等で大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想に関しましては、2 ページ「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	3
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書 .....	6
(第3四半期連結累計期間) .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) セグメント情報 .....	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10
(7) 後発事象に関する注記 .....	11

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、為替相場の急激な変動により企業収益への影響が懸念されたものの、景気対策効果もあり緩やかな回復基調を示し、個人消費も同様に回復傾向が見られました。

酒類業界では、引き続き業務用市場は低調でしたが、家庭用市場は低価格化が進行したものの販売数量は堅調に推移しております。

当第3四半期連結累計期間における売上高は、全体では減収となりました。酒類事業において、業務用市場向けは市況同様に引き続き厳しい状況でしたが、家庭用市場向けのデイリーワインは国産ワインを中心に好調に推移しました。焼酎などの受託生産品は、前年同期を割り込みました。医薬・化学品事業は、輸出用制癌剤原体、溶剤類の販売が低調で減収となりました。利益面では、引き続き“価値営業”の推進、ワインの在庫適正化や販売管理費の削減により酒類事業は改善しましたが、飼料事業は、水産飼料事業の不適切な取引が影響し、大幅に減益となりました。

連結売上高	52,287百万円	(前年同期比	6.7%減)
連結営業損失	△1,815百万円	(前年同期営業損失	△2,628百万円)
連結経常損失	△1,693百万円	(前年同期経常損失	△2,436百万円)
連結四半期純損失	△4,054百万円	(前年同期純損失	△2,295百万円)

事業別の状況は、次のとおりであります。

#### (酒類事業)

当第3四半期連結累計期間におけるワイン市場について、家庭用市場における内食化傾向により酸化防止剤無添加ワインカテゴリーや大容量の国産ワイン、店頭価格800円未満のリーズナブルな価格の輸入ワインを中心に好調に推移したものの、業務用市場を中心に引き続き厳しい状況が続く、全体では前年同期を下回る状況で推移しました。

当社グループのワイン事業は、国産ワインでは、「メルシャン勝沼ワイナリー」（山梨県）を、品質の更なる向上を目指すとともに日本ワインの素晴らしさを楽しむ・学べる空間として、名称もあらたにワイナリー「シャトー・メルシャン」と改め、9月1日よりリニューアルオープンしました。また、国産デイリーワインの主軸の「ボン・ルージュ」「おいしい酸化防止剤無添加ワイン」「ピストロ」に1500mlのペットボトルを8月末に導入し、発売3週間で30万本を販売しました。輸入ワインでは、「フロンテラ」や、4月にリニューアルした「サンライズ」などチリワインが順調に拡大しました。また、春に料飲店向け、量販店向けともに積極的に提案したロゼワインについては、ワインの最需要期である秋から冬に向けて、スパークリングワインにロゼの新商品を導入するなど、1年通してロゼワインを提案し、市場の活性化を図りました。しかしながら、ワイン事業全体では、市況同様に低価格化の進行、業務用市場の低迷が影響し、数量では前年同期売上を上回りましたが金額では前年同期売上を下回りました。

加工用酒類事業は、7月よりキリン協和フーズ株式会社へ事業移管し受託生産になったため、大幅に減少しました。

アルコール事業では、7月に協和発酵バイオ株式会社との間で、それぞれの原料アルコール販売事業を統合した合弁会社である第一アルコール株式会社の営業を開始したため、アルコール事業全体では前年同期比を大幅に上回りました。

受託生産品については、事業移管した加工用酒類が受託品として加わりましたが、焼酎の販売が減少し、前年同期売上を下回りました。

これらの結果、酒類事業の売上高は386億6千3百万円（前年同期比5.2%減）となりました。一方、営業損失については、前年同期から7億5千2百万円改善し6億2千3百万円となりました。

#### (医薬・化学品事業)

医薬・化学品事業では、人体用抗生物質原体の販売は堅調でしたが、輸出用制癌剤原体と溶剤類の販売が低調で前年同期売上を下回りました。これらの結果、医薬・化学品事業の売上高は前年同期比1億8千2百万円減の52億1千2百万円（前年同期比3.4%減）となりました。また、営業利益については為替の影響で海外向けが影響し、前年同期から4億5千3百万円減少し2億8千6百万円となりました。

#### (飼料事業)

畜産飼料事業では、猛暑の影響で需要は落ち込んだものの、提案型営業が功を奏し付加価値商品のサプリメントのプレミアムタイプが堅調に推移しました。配合飼料は、数量では前年同期を上回りましたが、金額では原料供給価格の引き下げに伴う製品価格の値下げにより前年同期売上を下回りました。

水産飼料事業では、市場が生餌中心に安値で推移する中、配合飼料に生餌を混ぜたタイプなどで対応しましたが、付加価値商品「ソフトEP」は引き続き顧客の価格志向により販売数量が減少しました。

また、当事業における不適切な取引の影響により、前年同期売上を大幅に下回りました。

これらの結果、飼料事業の売上高は74億6千7百万円（前年同期比15.7%減）となり、営業損失については、前年同期から4億8千5百万円改善し、14億5千6百万円となりました。

（その他の事業）

その他の事業の売上高では、9億4千4百万円（前年同期比8.7%減）となりました。また、営業損失については、前年同期から2千8百万円改善し、2千1百万円となりました。

## （2）連結財政状態に関する定性的情報

### ◇総資産、負債、純資産

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて84億5千1百万円減少し、622億6千7百万円となりました。これは、主に「受取手形及び売掛金」の減少によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて38億8千8百万円減少し、275億9千3百万円となりました。これは、主に「短期借入金」の減少によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて45億6千3百万円減少し、346億7千4百万円となりました。これは、主に「利益剰余金」の減少によるものであります。

### ◇キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べて6億3千9百万円増加し、92億2千6百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失の計上及び売上債権の増加等により37億2千1百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、事業譲渡による収入及び有形固定資産の取得による支出などにより7億6千8百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の返済などにより△38億5千6百万円となりました。

## （3）連結業績予想に関する定性的情報

平成22年12月期の業績予想は、為替変動や天候不順等、不確定要素はあるものの、引き続き売上げの拡充、原価低減、効率化に努めコスト削減を図ることにより、平成22年8月12日に発表した通期の業績予想に修正はありません。

## 2. その他の情報

### （1）重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### （2）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### 1. 簡便な会計処理

該当事項はありません。

#### 2. 特有の会計処理

（税金費用の計算）

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

### （3）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

該当事項はありません。

### （4）継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,083	8,687
受取手形及び売掛金	13,161	19,640
有価証券	180	8
商品及び製品	10,623	10,709
仕掛品	930	417
原材料及び貯蔵品	2,253	2,989
繰延税金資産	132	89
その他	2,160	2,368
貸倒引当金	△428	△413
流動資産合計	38,097	44,496
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	18,876	19,754
減価償却累計額	△10,532	△10,646
建物及び構築物（純額）	8,344	9,108
機械装置及び運搬具	33,296	35,856
減価償却累計額	△27,668	△28,495
機械装置及び運搬具（純額）	5,628	7,360
土地	1,828	1,507
建設仮勘定	138	409
その他	2,556	2,632
減価償却累計額	△1,921	△1,968
その他（純額）	635	664
有形固定資産合計	16,575	19,050
無形固定資産	876	1,256
投資その他の資産		
投資有価証券	2,895	2,824
前払年金費用	666	950
繰延税金資産	1,106	24
その他	5,008	4,137
貸倒引当金	△2,958	△2,020
投資その他の資産合計	6,717	5,917
固定資産合計	24,170	26,223
資産合計	62,267	70,719

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,413	5,550
短期借入金	4,341	7,414
1年内返済予定の長期借入金	5,014	2,033
未払金	5,400	6,394
未払費用	1,132	925
未払法人税等	203	277
預り金	1,574	2,220
賞与引当金	903	378
その他	191	799
流動負債合計	25,176	25,994
固定負債		
長期借入金	11	3,027
繰延税金負債	2,115	2,127
退職給付引当金	157	154
その他	132	177
固定負債合計	2,416	5,486
負債合計	27,593	31,481
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,972	20,972
資本剰余金	16,830	16,830
利益剰余金	△2,610	2,109
自己株式	△161	△157
株主資本合計	35,031	39,756
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△265	△103
繰延ヘッジ損益	△17	32
為替換算調整勘定	△1,253	△813
評価・換算差額等合計	△1,536	△884
少数株主持分	1,179	366
純資産合計	34,674	39,238
負債純資産合計	62,267	70,719

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
売上高	56,063	52,287
売上原価	42,401	38,466
売上総利益	13,661	13,820
販売費及び一般管理費	16,289	15,635
営業損失(△)	△2,628	△1,815
営業外収益		
受取利息	9	7
受取配当金	46	31
持分法による投資利益	250	295
その他	106	56
営業外収益合計	412	392
営業外費用		
支払利息	184	138
為替差損	14	79
その他	22	52
営業外費用合計	221	270
経常損失(△)	△2,436	△1,693
特別利益		
固定資産売却益	1,351	3
投資有価証券売却益	276	0
その他	21	5
特別利益合計	1,650	10
特別損失		
固定資産売却損	25	17
固定資産除却損	66	164
投資有価証券評価損	25	0
たな卸資産評価損	1,150	—
組織再編費用	—	396
水産飼料事業の不適切な取引に係る損失	—	1,321
その他	18	239
特別損失合計	1,286	2,139
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,073	△3,822
法人税、住民税及び事業税	252	220
法人税等調整額	△2	6
法人税等合計	249	226
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△27	5
四半期純損失(△)	△2,295	△4,054



## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△2,073	△3,822
減価償却費	2,705	2,386
のれん償却額	42	42
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	826	952
賞与引当金の増減額 (△は減少)	561	525
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	4	3
前払年金費用の増減額 (△は増加)	267	284
受取利息及び受取配当金	△55	△39
支払利息	184	138
為替差損益 (△は益)	8	△16
持分法による投資損益 (△は益)	△250	△295
投資有価証券売却損益 (△は益)	△272	△0
投資有価証券評価損益 (△は益)	25	0
固定資産売却損益 (△は益)	△1,325	13
固定資産除却損	66	164
売上債権の増減額 (△は増加)	8,995	6,450
たな卸資産の増減額 (△は増加)	2,597	92
その他の資産の増減額 (△は増加)	△399	243
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,620	871
その他の負債の増減額 (△は減少)	△3,390	△3,934
小計	6,895	4,059
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△70	△337
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,825	3,721
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△0	△0
定期預金の払戻による収入	—	14
有価証券の取得による支出	△61	△62
有価証券の売却による収入	73	70
有形固定資産の取得による支出	△2,332	△1,928
固定資産の売却による収入	1,547	151
無形固定資産の取得による支出	△125	△133
投資有価証券の取得による支出	△11	△0
投資有価証券の売却による収入	439	6
貸付けによる支出	△105	△22
貸付金の回収による収入	75	8
利息及び配当金の受取額	60	164
事業譲渡による収入	—	3,308
事業譲受による支出	—	△731
その他	△4	△74
投資活動によるキャッシュ・フロー	△446	768

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△364	△3,024
長期借入金の返済による支出	△45	△28
自己株式の売却による収入	1	0
自己株式の取得による支出	△10	△4
配当金の支払額	△666	△665
利息の支払額	△141	△107
その他	△9	△26
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,235	△3,856
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10	6
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	5,133	639
現金及び現金同等物の期首残高	5,176	8,586
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,310	9,226

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自平成21年1月1日 至平成21年9月30日）

	酒類 (百万円)	医薬・ 化学品 (百万円)	飼料 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去また は全社 (百万円)	連結 (百万円)
(1) 外部顧客に対する売上高	40,776	5,394	8,857	1,034	56,063	—	56,063
(2) セグメント間の内部売上高	0	—	—	352	352	(352)	—
計	40,777	5,394	8,857	1,386	56,416	(352)	56,063
営業利益または営業損失（△）	△1,375	740	△1,941	△50	△2,628	0	△2,628

(注) 1. 事業区分は、製品の種類・性質の類似性をもとに区分しております。

2. 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
酒類	果実酒、酒類原料用アルコール、合成清酒、焼酎、みりん、調味料 スピリッツ、リキュール等
医薬・化学品	医薬品、農薬、動物薬他発酵製品、溶剤等
飼料	配合飼料、糖蜜飼料、養魚用飼料、魚の養殖等
その他	不動産及び施設の賃貸、製剤・実験施設の消毒及び滅菌代行業務、環 境検査業務、美術館の企画運営、貨物運送業、保険代理店等

3. 会計処理の方法の変更

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間の酒類事業及び飼料事業の営業損失がそれぞれ377百万円、8百万円減少し、その他事業の営業損失が0百万円増加しております。また、医薬・化学品事業の営業利益が23百万円増加しております。

4. 追加情報

「追加情報」に記載のとおり、当社及び国内連結子会社の機械装置の耐用年数については、第1四半期連結会計期間より、法人税法の改正を契機として見直しを行い、改正後の法人税法に基づく耐用年数に変更しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益が、医薬・化学品事業で17百万円増加しております。また、酒類事業及びその他事業で営業損失がそれぞれ110百万円、0百万円増加しております。

当第3四半期連結累計期間（自平成22年1月1日至平成22年9月30日）

	酒類 (百万円)	医薬・ 化学品 (百万円)	飼料 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去また は全社 (百万円)	連結 (百万円)
(1) 外部顧客に対する売上高	38,663	5,212	7,467	944	52,287	—	52,287
(2) セグメント間の内部売上高	22	—	—	297	319	(319)	—
計	38,685	5,212	7,467	1,241	52,607	(319)	52,287
営業利益または営業損失(△)	△623	286	△1,456	△21	△1,815	0	△1,815

(注) 1. 事業区分は、製品の種類・性質の類似性をもとに区分しております。

2. 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
酒類	果実酒、酒類原料用アルコール、合成清酒、焼酎、みりん、調味料 スピリッツ、リキュール等
医薬・化学品	医薬品、農薬、動物薬他発酵製品、溶剤等
飼料	配合飼料、糖蜜飼料、養魚用飼料、魚の養殖等
その他	不動産及び施設の賃貸、製剤・実験施設の消毒及び滅菌代行業務、環 境検査業務、美術館の企画運営、貨物運送業等

#### 【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年9月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)の本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

#### 【海外売上高】

前第3四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年9月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)の海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

- (7) 後発事象に関する注記  
該当事項はありません。